

多古町災害ボランティアセンター

繋がり広まるボランティアの輪



【写真解説】 ①がれきの処理作業 ②ボランティアセンターでのマッチングおよび説明 ③災害ごみの運び出し ④⑤長野県建設業協会によるブルーシート張り ⑥持ち込みの災害ごみ処理 ⑦台風で被害を受けた苗の廃棄処理 ⑧支援物資の運び出し ⑨商工会青年部と消防団によるビニールハウス解体



災害ボランティアセンター長
(多古町社会福祉協議会事務局長)
うい たけし
宇井 剛さん

今回、多古町社協は災害ボランティアセンターを初めて立ち上げました。そのため、県や他市町村の社協から多くの支援を受けながら町と連携してスタートしました。ボランティア参加人数は9月17日の立ち上げから数え延べ757人という多くのボランティアの皆様にご参加いただきました。また、地元の地理に詳しい防災ボランティアの皆様にもセンター運営を支援してもらい、人手や力が必要となる作業には、消防団や商工会青年部の若い力で災害支援にあたりました。

多古町災害ボランティア
対応状況
(10月18日現在)
活動件数：258件
対応中：17件
ボランティア
参加人数：757人
(延べ人数)

最後に、多古町災害ボランティアセンターにご協力いただいた皆様から感謝の言葉を伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。



多古町社会福祉協議会
会長
おがわ しげのり
小川 重則さん

多古町災害ボランティアセンター立ち上げから運営にあたりご尽力された、多古町社会福祉協議会(以下、多古町社協)会長の小川さんと事務局長の宇井さんに話を伺いました。

ボランティアセンターに対する要望が多かったのは、がれき、倒木の片づけ、瓦が飛んだことによるブルーシート張り、ビニールハウスの解体等です。依頼者の中には一人暮らしのお年寄りもいらっしゃいました。どうしても自分ではできないので本当に助かったという声もいただいています。

依頼に対応していく中で、課題も見えてきました。例えば屋根補修のブルーシート張りです。屋根の修理は危険な作業でプロの技術が必要です。しかし、被災状況に対して専門知識を持った作業員が不足するケースがあり、今後の課題となっています。今回は長野県建設業協会をはじめとする専門技術を持った皆様ボランティアに参加してくれました。高所作業を中心に対応してもらい支援が格段に進みました。

人の温かさ、思いが支えた復旧支援 きっと誰もがこの日々を忘れない



【写真解説】 ①ボランティアによるブルーシート準備 ②自衛隊重機による倒木除去作業 ③り災証明発行業務支援を行う栃木県職員 ④多古町建設業協力会による倒木撤去作業 ⑤ひかり学園の入浴支援で出動したANA除雪車 ⑥特養の入浴支援で除雪車からお湯を入れるJAL職員 ⑦給水活動支援(流山市、柏市、松戸市、八千代市、我孫子市、習志野市、栄町、千葉県企業局水道部、自衛隊) ⑧災害用シャワーを提供してくれた茨城県境町(中村小にて) ⑨自衛隊仮設風呂の活動支援をしたひまわり隊 ⑩千葉トヨベツから災害支援をいただいた電気自動車 ⑪土のう作りを行うNAA職員 ⑫ブルーシート張りを行う自衛隊 ⑬励ましの声が寄せられたメッセージボード ⑭自衛隊を見送る第一小の児童